

国連の前線から日本の国内に何を伝えるのか ～日本が国連にできること、国連が日本にできること～

2008年12月12日
紀谷昌彦

1. 国連からの視点はなぜ大事か

- (1) 日本は世界の中で生きている - 金融危機、気候変動、テロ、感染症・・・
- (2) しかし、日々の生活では実感がなく内向き - 「パラダイス鎖国」?
- (3) 世界の問題に対する当事者意識と切迫感の必要性 - 誰が「通訳」に?
- (4) 国連からの視点 - 世界の常識・相場観から「世界の中の日本」を客観視

2. 国連から「世界の中の日本」はどう見えるか

- (1) 日本は世界の主要国 - 世界の運営に責任を持つ、平和で豊かな国
- (2) 世界中に深刻な問題 - 日本は「見て見ぬふり」「ただ乗り」ができるか
- (3) 世界は皆でつくるもの - 日本への期待? 責任? 自己実現? 自己利益?
- (4) 日本の強みを世界に生かすリーダーシップが大事 - 国連で実践・蓄積

3. 日本が国連にできることは何か

- (1) 総論：日本は国連を通じて世界に何を実現したいのか
- (2) 平和・安全保障：軍縮・不拡散（唯一の被爆国） 平和構築 = 平和の定着 + 国づくり（平和国家 + 開国以来の経験） P K O参加に感謝・評価
- (3) 経済・開発・環境：自助努力、人づくり、インフラ、人間の安全保障、南南協力、公害対策・省エネ・3 R、科学技術、ODAは重要なツール
- (4) 人権・民主主義・法の支配：普遍性の尊重と多様性（歴史・伝統・文化）への配慮、批判のみならず励ましと支援で促進、法継受の経験
- (5) 国連の機能強化：実効性と正統性の実現（安保理改革）、行財政（実績あり）、人的貢献（モラルが高く現場を重視）

4. 国連が日本にできることは何か

- (1) 情けは人のためならず：相互依存と信頼、生かし生かされる
- (2) 情報と人脈の交差点：相場観をつかみ、意志決定を誤らない前提
- (3) ルール・メイキングのプラットフォーム：日本の価値観と利益を反映
- (4) ハブをとる機会：レバレッジ効果が期待、アイデアが大きな価値に

5. 日本国内にどう伝えるか

- (1) 世界や国をつくるのは人：国連や国の関係は、個々人の関係で築かれる
- (2) 一人ひとりが広告塔：「意気に感ずる」「生き様のメッセージ性」「気概」
- (3) 様々なメディアやチャンネルを活用：至るところで戦略的に声を上げる
- (4) 生活に身近でわかりやすい具体例：子ども、女性、医療、犯罪等
- (5) 来年からの2年間は好機：安保理非常任理事国、2010年はMDG + 10年、国連創設60周年首脳会合での国連改革 + 5年
- (6) 継続は力なり：世論は中長期的に変わるもの

(以上)